

地元活性化探究プロジェクト

～Explore our local community and ourselves～

Vol.20 では「地域×SDGs」交流会 with 地域人材+教員の振り返りを掲載しました。Vol.21 では、交流会において各ゴールについてそれぞれのグループが話し合いをしたまとめをお伝えします。まずは、最優先目標とされている開発目標 1、2、3、4、5（社会分野）について取り上げます。

SDGsの理念「誰一人取り残さないーNo one will be left behind」

発展途上国／先進国の区別なく、地球全体の問題として考える

グループ① ファシリテーター 加藤 はるひさん

課題 子供の貧困→日本は貧困世帯が少ないという間違った認識→差別につながる

情報 日本では子供の貧困が深刻化←7人に1人 ひとり親世帯多い
絶対的貧困層(最低限の生活が送れない・アジア、アフリカなど)



相対的貧困(日本:年収が122万以下)*正しく認識されていない

日本は豊かであるという先入観

私たちにできること

- ・日本の貧困についての知識を得る→発信
- ・子供食堂
- ・地産地消
- ・不要なものを寄付する

1 貧困をなくそう



1 貧困をなくそう



グループ② ファシリテーター 加地 晴香さん

課題 一般の人が「貧困」といわれ想像するのは生活を維持していくのが困難な人々なのではないだろうか？ しかし、貧困には 2 種類ある。絶対的貧困そして 相対的貧困←日本に存在する貧困はこちら

情報

世界の貧困について

- ・7 億人以上
- ・お金がない→栄養失調

日本の貧困について

- ・世界と比較して相対的貧困率が高い
- 外見からはわかりにくい←支援難

1 貧困をなくそう



子供の貧困について

- ・日本 13.5% (7 人に 1 人)
- ・岐阜県 7.2% (14 人に 1 人)
- ・大学進学、習い事、夢の断念(金銭的)
- ・アルバイトに苦しむ
- ・我慢を強いられる生活

私たちにできること

まず日本の多くの人々に貧困の状態を知ってもらうために SNS などうまく利用するなどして日本人の意識を高くしていくことで、募金に協力してくれる人も増えるのではないかな。より身近なところで考えると、無駄なものを減らすこと、物を大切にすること。これらが将来的には貧困をなくしていく未来につながると考えた。1人1人が「知ること」「知ろうとすること」。これが解決への第一歩だと考えます。

グループ① ファシリテーター 原 優沙さん

課題 食品ロスについて考える

世界の現状をしり発信する

2 飢餓をゼロに



情報 ・世界(特に発展途上国)で起きている飢餓は、その国、地域の経済状態、自然環境、そして貧困と複雑にリンクしている(他の SDGs とのリンク)。先進国の協力も必要だが、私たちがどうにかできる問題ではないことを知った。

・日本(地域)で起きている飢餓、ホームレスなどに関して私たちが関心を持ち、政策やボランティア、寄付などに参加することで解決できる問題ということがわかった。

私たちにできること

まずは、世界で起きている飢餓と日本国内の各地域で起きている飢餓は分けて考える必要あり。高校生の私たちにできることは、情報発信や募金活動だと思う。



グループ② ファシリテーター 古井 泉妃 さん

課題 食品ロス(日本)→消費期限、食べ残しを無くす

情報

食品自給率(低) ・農家が少ない
輸入率 (高) ・食べ残しが多い

私たちにできること

- ・リミッター(アプリ)をスマートフォンにインストール
- ・プランターで自分で作物を育て、食物の大切さを知る
- ・ソーラーシェアリング(太陽光パネルの下で食物を育てる)
- ・フードバンク
- ・0円食堂を自分たちで



グループ① ファシリテーター 橘田 摩耶さん

課題 感染症
生活習慣病を減らす

情報

- ・生活習慣病患者が増えている→ 現役世代で既に罹患し、退職後重症化している確率高。
- ・高齢者の死亡率高い →若い頃から検診を受けることが重要
- ・中津川市は健康づくり条例で「健康なかつがわ21」を宣言
- ・たばこによる身体被害 →吸っている人よりも副流煙によっておこる健康被害のほうが大きい。
→吸っている人が周囲を意識することが大切！

私たちにできること

- ・地域で起こっている病気を調べ、行われている対策に関心をもつ
- ・地域や各種団体で行っている募金活動などに参加する



グループ② ファシリテーター 小林 篤季さん

交流してわかったこと

- ・周りの人や地域のひととの関りが増えれば、減らせる病気や事故がある。
例)・精神疾患になってしまった人
 - ・高齢者の運転による事故→高齢者の事故による死亡率が下がる、
→同時にその事故に巻き込まれる人が減る

今後どうしていくべきか

- ・地域の人と関わる場所や機会を増やす
 - お互い話を聞きあうことで、心が楽になる→精神病対策につながる
- ・交通安全の講話やキャンペーンに参加
 - 免許返納を呼びかける まずは自分の祖父母から
 - 早めのライト点灯呼びかけ



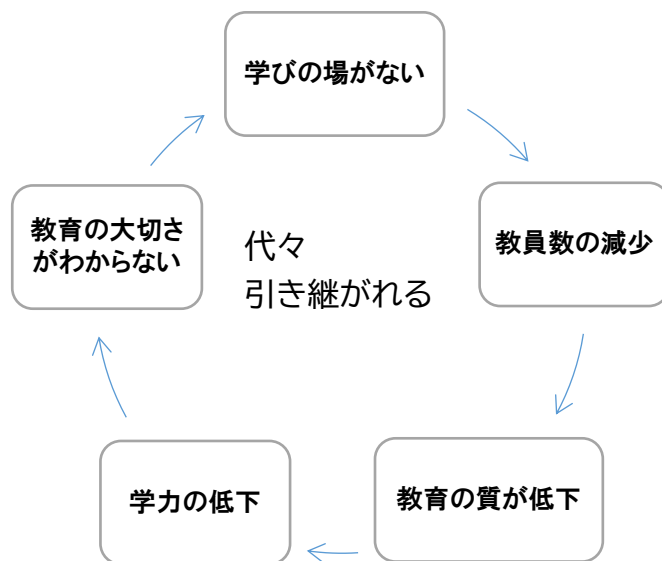
我々高校生の呼びかけは効果的かもしれない。
地域の人とパートナーシップで対応

3 すべての人に
健康と福祉を



グループ① ファシリテーター 久保田 陸士さん

課題 世界で数千万人の子ども達が教育を受けられていない。



まとめ

先進国である我々が根本である「学びの場がない」という状況を手助けする。
たとえば勉強道具の寄贈、募金、教員を派遣する。
しかしこれらの活動は永久的には不可能である



現地の力でやっていけるような方法を伝える(青年海外協力多や NGO)

4 質の高い教育を
みんなに



グループ② 小林 里菜 さん

課題

- ・小中高生の学力低下→勉強が面白くない
- ・都会と田舎の学力差

今後どうしていくべきか

- ・興味ある分野から伸ばす(地域や学校の職業体験などに参加)
- ・できる楽しさを知る(補習などへの積極的参加)
- ・学びに ICT を活用(自発的な学習者)

4 質の高い教育を
みんなに



4 質の高い教育を
みんなに



グループ① ファシリテーター 牧野 実祐さん

課題 女性が働きやすい社会へ

情報・分析 日本の歴史から考察

男性→仕事 女性→家事

歴代総理大臣は全員男性



男性のほうが雇用について優位である。(ex.給料など)

固定概念

5 ジェンダー平等を
実現しよう



続き

私たちにできること

女性が働きやすい環境づくり

・家事の分担 ・託児施設の拡充

ジェンダー平等を知る

・固定概念を捨てる ・考える

女性自身があきらめない強い意志をもつ

グループ② ファシリテーター宮川 芽依さん

課題

身近にあるジェンダー問題

情報

女性にたいする差別は多い

→職場でトイレに行きづらい、働きづらい

女性は仕事+家事

結婚・出産・子育てがしづらい

自分たちにできること

・SNS で女性の活躍を広める

・家事は家族間で役割分担

・この課題についてこのような交流会を実施し理解を深める

・言動に注意(自分たちの意識で解決できる)

・ジェンダー車両を設ける

・自分たちで誰もが過ごしやすい環境を考えつくりあげていく。

5

ジェンダー平等を
実現しよう



5

ジェンダー平等を
実現しよう

